



こどもの手術



筑豊地区唯一の小児外科専門施設として、診療科開設以来30年以上にわたって、手術を中心に子ども達の外科疾患の治療を行っている飯塚病院の小児外科。

2013年に北棟がオープンし、小児病棟、新生児集中治療室（NICU）ともに北棟に移りましたので、療養環境も一層充実しています。今回の特集では、小児外科での手術の特徴や対象となる病気などをご紹介します。



北棟5階の小児病棟

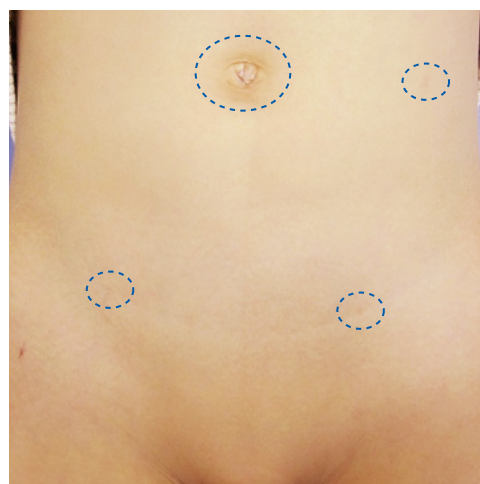
◎ 当院小児外科での手術の特徴

1. きずが目立たない手術

きずを目立たなくする手術の代表的なものが腹腔鏡手術です。腹腔鏡とは先端に小型カメラを内蔵した細長い棒状の医療機器で、おなかを数ミリだけ切開してこの腹腔鏡を挿入しておなかの中を見ながら、手術を行います。手術は鉗子（かんし）という細い手術器具を使って行います。鉗子を入れるためにできるきずは、針穴ほどの小さなものです。

当院小児外科で行う手術の多くがこの腹腔鏡手術です。2014年は、鼠径（そけい）ヘルニアと急性虫垂炎に関しては生後2ヶ月から15歳までのお子さんの手術全て、腹腔鏡を使って行いました。

腹腔鏡を使った手術が難しい場合でも、できるだけ手術によるきずが目立たないように配慮しています。



鼠径ヘルニアの手術跡
(点線部分が手術によるきず)

2. 術後の痛みを軽減

手術後に痛みがある場合には、「末梢神経ブロック」という方法を使って痛みを和らげます。これは局所麻酔の一種で、痛みの伝達をさえぎる治療です。

3. 短い入院期間

きずを小さく、そして痛みを軽く、ということが実現できれば、手術後の退院が早くなります。鼠径ヘルニアの腹腔鏡手術では、2歳以上であれば日帰り手術を行っています。この日帰り手術は福岡県内では当院でしか行っていません。鼠径ヘルニア以外にも、下記「主な病気」で紹介しているような一般的な外科疾患については、日帰りまたは一泊二日での手術を行っています。

◎ 主な病気

● 鼠径ヘルニア

おなかの中にある腸や卵巣などの内臓の一部が、本来ある場所から飛び出してしまう、鼠径部（足の付け根）や陰のうが膨らむ病気です。一般的に「脱腸」とも言われ、20人～50人に1人の割合で発生します。手術により治療することが一般的です。



鼠径ヘルニア



● 精系水腫（精索水腫および陰嚢水腫）

鼠径ヘルニアと似た症状ですが、鼠径ヘルニアは内臓が飛び出した状態であるのに対し、精系水腫は水がたまった状態です。自然と治ることが多いのですが、1歳を過ぎても腫れたり戻ったりを繰り返す場合には手術を行います。

● 急性虫垂炎

一般的に「盲腸(もうちょう)」と言われる病気です。大腸の入り口部分にある虫垂突起というところが炎症を起こす病気です。右下腹部の激しい痛みが特徴で、手術により治療を行うことが一般的です。

● 停留・遊走精巣

停留精巣は、陰のう内に精巣を触れない状態です。遊走精巣は、精巣が陰のうと腹部を行ったりきたりする状態です。停留精巣は手術により治療することが一般的です。遊走精巣の場合は治療をせずに経過を観察することが多いのですが、精巣を触知しにくくなった場合は手術を行うこともあります。

● 臍ヘルニア

うまれてすぐの赤ちゃんの腸が筋肉のすきまから飛び出して、いわゆる「でべそ」になっている状態です。5人～10人に1人の割合で見られますが、多くの場合1歳頃までに元の状態に戻ります。しかし1～2歳以降もこの状態が続く場合は、手術を行うこともあります。



臍ヘルニア

◎ その他の手術

これまでご紹介した一般的な小児の外科疾患だけでなく、新生児から中学生まで、幅広く治療を行っています。出生前診断の結果に心配のある方のご相談もお受けしております。

こども、特に新生児の手術は大学病院でなければできない、と思われている方も少なくないのではないのでしょうか。実際には、小児がんなど一部の病気を除いて、ほとんどの手術を飯塚病院で行うことができます。

小児外科スタッフ一同、「筑豊地域のこどもたちの健やかな成長をサポートする小児外科医療」が提供できるよう、日々の診療を行っています。こどもさんの病気で何か心配なことなどございましたら、まずはお気軽にお電話ください。

ご相談・お問い合わせ

飯塚病院 小児外科外来 TEL 0948-29-8026 (平日 8:30～16:30)

【外来スケジュール】

○は初診 ●は再診です。

医師名	月	火	水	木	金
中村 晶俊	○/●	AM:手術 PM:○/●	○/●	AM:手術 PM:○/●	○/●
福原 雅弘	●	手術	●	手術	●